

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 16

学校名・団体名	春日部市立武里西小学校
HPアドレス	http://www.takesatonishi.av-center.kasukabe.saitama.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	互いのよさを認め合い、よりよい人間関係を築く 児童の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <ul style="list-style-type: none">・グローバル化が進んだ本校において、異なる価値観を受け入れ、お互いに尊重し支え合ってよりよい人間関係を形成していく。・特別活動や道德教育の研究を通して、子供たちに一人一人が活かされる居心地のよい学級づくりを目指し、たくましい実践力の育成を図る。	

1 研究主題

互いのよさを認め合い、よりよい人間関係を築く児童の育成
—児童が主体的に話し合い、協働して実践する学級活動を通して—

2 研究の経過

本校は、武里団地を含む地域を学区とする4校を統廃合して平成15年度に新設された開校14年目の学校である。さまざまな地域から人が集まっているだけでなく、外国からきた児童・外国籍の児童も増加し、平成27年度から日本語教室が新設された。生まれた場所も国も家庭環境も違うことから、文化や習慣が異なり、児童は多様な価値観をもっている。また、明るく素直であるが、自分の意見を主張することが苦手な傾向にある。

人と人の絆の中でこそ人は成長する。グローバル化が進んだ本校においても、異なる考えや価値観を受け入れ、お互いに尊重し支え合って、よりよく生きていこうとする態度を育むことが重要である。

そこで、意見の異なる人と折り合いをつけたり、他者と話し合って集団としての意見をまとめたりして、よりよい価値を生み出していく学級活動の充実が、必要になってくると考えられる。そして、学級や学校生活の課題を見つけ、児童が主体的に話し合い、役割を分担して協働して実践したり、実践した過程で互いのよさに気付いたりすることによってよりよい人間関係を形成していきたい。

また、中央教育審議会に対して出された諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」では、新しい時代に必要となる資質や能力として、基礎的な知識・技能の習得とともに自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要だとある。そして、その力を育むために、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習「アクティブ・ラーニング」が、次期学習指導要領改訂のキーワードになっている。学級活動は、こうした協働的な学びの基礎の形成にもつながると考え、この研究主題を設定し研究していくことにした。さらに、今後、道徳の教科化に伴い、道徳との連携がより一層求められていくことから、道徳を関連研究として取り上げ、学級活動を道徳的実践の場としても充実させていきたい。

本年度から取り組む研究であるが、この特別活動の研究を通して子供たちにたくましい実践力を養い、一人一人が生かされる居心地のよい学級でしっかり学習し学力をのばしたいと考える。2年後には、埼玉県の特例活動の発表を受ける予定である。

3 研究の内容

(1) 児童が主体的に話し合い、よりよい集団決定を行うための指導の工夫

- ・話し合いがスムーズに進むために、①司会グループには「話し合いの進め方」プリント②学級全員には「武西発表名人」プリントを配り、話し合いの基本的な進め方や話し方を学ぶために話型を活用する。
- ・自分の意見をしっかりとって学級会に臨めるように、各自学級会ノートを用意して朝の時間等を利用して書き込みをさせる。教師もそれぞれの意見を把握する。
- ・友達のたくさんの意見を集団決定するために、意見のまとめ方「学級会忍法」を掲示して、それぞれの意見の折り合いをつけて決定させる手引きとする。
- ・話し合いの進め方を確認するために、事前に司会グループに指導をする。教師が中心となって、一緒に活動計画をつくり、話し合いの練習を行うことで、スムーズな進行ができるようにする。
- ・思考を整理し、意見を出しやすいようにするために、黒板の板書の工夫をする。(短冊による意見の分類・話し合いの段階の明確化・時計を使つての時間配分・ありがとうマーク・解決マーク)

(2) 児童が協働して実践するための指導の工夫

- ・見通しをもって自主的に活動できるようにするための活動カレンダーの活用
- ・準備状況を確認できるようにするための集会活動係チェック表の活用
- ・自分のがんばったところや友達のよかったところなど、互いのよさを認め合えるようにするための活動振り返りカードの活用

(3) 特別活動のための時間を日課表に位置づける工夫

- ・司会グループの指導や学級会ノートへの記入の時間を月に1回月曜日の朝の時間に設定
- ・学年・学級活動の時間を第3火曜日の朝の時間に設定(オープンスペースを利用して指導)
- ・4年生以上の代表委員会の時間を月に1回清掃の時間に設定(その他の児童は清掃なしの昼休み)

(4) 集団の変容を見取る評価の工夫

- ・活動を振り返り、「進んで」「工夫して」「協力して」「仲良く」「計画的に」等、子供たちに育てたい力について項目をあげ、評価をさせる。その評価を続けていき、変容を把握して次の課題につなげていく。

・集団の評価を通して学級の状況を把握して、教師は自らの指導内容や指導方法を振り返るとともに、今後の指導に生かす。

(5) 特別活動で「自己指導能力」の育成を図る工夫

・学級活動(2)(日常生活や学習への適応及び健康安全を指導する)の授業において、「教師から提示された課題を自分の課題として受け止める」「原因を追及し解決への意識を高める」「解決の方法について話し合いを通して考える」「自己の努力目標を決める(自己決定)」という一連の指導過程を重視することで、児童に自己実現の喜びを味わわせる。

4 研究の実践

(1) モデル授業：平成28年5月17日(火)

第2学年3組 池田 有理子 教諭 「杉本先生ありがとうの会をしよう」

(2) 講演会：平成28年5月23日(月)

講師 越谷市立蒲生南小学校 木場 真理 先生 「さあ、学級活動をやろう！」

(3) 校内授業研究会：平成28年6月14日(火)

第2学年1組 小畑 智大 教諭 「山根さんよろしくねの会をひらこう」

指導者 越谷市立蒲生南小学校 木場 真理 先生

(4) 春日部市教育委員会・東部教育事務所学校訪問：平成28年6月24日(金)

第3学年1組 山崎 育海 教諭 「七夕集会を開こう」

第6学年2組 渡辺 真之助 教諭 「陸上大会優勝おめでとうの会をしよう」

指導者 東部教育事務所指導主事 安東 由美子 先生

春日部市教育委員会指導主事 秋山 法之 先生

春日部市教育委員会指導主事 石川 和明 先生

(5) 講義・演習：平成28年8月26日(金)

学校課題研究主任 池田 有理子 教諭 「計画委員会・高学年の学級会の進め方」

(6) 校内授業研究会：平成28年10月5日(水)

第4学年1組 塩田 純広 教諭 「4年1組 秋の読書祭りをしよう」

指導者 越谷市立蒲生南小学校 木場 真理 先生

(7) 校内授業研究会：平成28年11月24日(木)

第1学年1組 小川 千聡 教諭 「2組と仲良くなろう会をしようー友達100人大作戦ー」

第5学年1組 佐々木 俊大 教諭 「交流クラスと絆を深めようの会をしよう」

指導者 越谷市立蒲生南小学校 木場 真理 先生

(8) 講演会：平成28年12月1日(木)

講師 前埼玉県道徳教育研究会長 廣瀬 仁郎 先生

『『特別の教科 道徳』の実施に向けてー道徳授業の質的改善を図るー』

(9) 講演会：平成29年1月12日(木)

講師 高崎経済大学講師 石塚 忠男 先生

「社会参画力やよりよい人間関係を形成する特別活動の実践」

(10) 校内授業研究会：平成29年2月3日(金)

第2学年2組 大澤 礼佳 教諭 友達の気持ちを考えて「およげないりすさん」

指導者 前埼玉県道徳教育研究会長 廣瀬 仁郎 先生

5 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・学級会での話し合い活動を通して、友達とよりよい人間関係を築くことができるようになってきた。
- ・学級をよりよくしようとするために、児童が主体的に考えて行動できるようになってきた。
- ・発達段階に応じた集団決定に向けて、「学級のため」「学年のため」「学校のため」という視点での話し合いが多くなってきた。
- ・少数意見を大切にしながら、多様な考えを認め合い、励まし合うことができるようになってきた。
- ・一つのこと学級で成し遂げる経験を積むことで、児童が成就感や達成感を感じ、自己肯定感の高まりが見られるようになってきた。
- ・学級会での話し合い活動を通して、児童が自治的な活動を意識し、よりよい学校生活にしていこうとする姿が見られるようになった。

(2) 今後の課題

- ・学級会での話し合い活動の経験を生かし、自分の考えを相手に積極的に伝えられるように支援する。
- ・児童の心を耕しながら、相手を思いやる気持ちをさらに育てていく。